

編 集 後 記

第五号を世に送る。先ず五年間の歩みを素直に喜びたい。しかし、感慨と共に自責の念にもかられる。それはわれわれの築いた実績であるが、われわれの実態を赤裸々に示す鏡でもあるからだ。第三号の発行ではこの研究誌が、三日坊主ならぬ三年で終ることを懸念した。幸いにもそれは杞憂におわった。しかし、第5号の発行に際し、新たな精進を覚悟しなければならないと痛感する。マンネリズムに陥っていないか。充実・進展の足がかりを確保しているのか。確かな軌跡を残すためには常にこの言葉を繰り返さなければならない。

教育の、そして学問研究の、真の意味は短い言葉なんかで表現できる筈もない。大言壮語するのは容易である。その実、内容は空疎で、裏をかえせば、不勉強のごまかしにすぎないこともしばしば見うける。特に「文学」は不精までもを正当化する例の「文学的」という毒を孕んでいる。それは文学にたずさわるもののもっとも危険な陥穽である。そのことに気づけば謙虚さは己ざと具わる。次に必要なのは、堅牢で正確な基礎工事である。それは日々の研鑽以外のなにものからも手にすることはできない。それだけの手続きを終えてはじめてわれわれは揺籃期を終えた、と宣言できるのである。(S)

執 筆 者 紹 介 (執筆順)

沖		浩	子	本学短期大学部助教授
後	藤	一	美	本学文学部講師
石	田	正	司	本学文学部講師
酒	井	健	治郎	本学文学部助教授

別府大学英语・英米文学論叢 第五号 1972

昭和47年12月25日 印刷
昭和48年1月15日 発行

非売品

編集兼発行者 別府大学英语英文学会
代 表 者 佐藤 義 詮
発 行 所 別府大学英语英文学会
〒874 別府市北石垣82
別府大学文学部英文学研究室内
T E L (67) 0101・内線27
印 刷 所 日 新 印 刷 株式会社